

---

# 箕谷ふれあいのまちづくり協議会 地域おたすけガイド (地区防災計画)

---

1. 運営本部の設置基準
2. 活動方針
3. 役員参集場所等一覧
4. 防災資機材庫リスト
5. 地震発生時の対応
6. ブロックの活動指針
7. 地震発生から2日目以降の行動
8. 防災マップ

2023年 3月作成

- (1) 地域おたすけガイドは、地域の皆さんが災害時に活動する際に、活用するものです。災害時は、周囲の状況をよく確認し、自らの安全を確保し、無理をせず、自分たちのできる範囲で活動を行うことが大前提です。
- (2) この地域おたすけガイドに記載している内容は完全ではありません。
- (3) 訓練を通して繰り返し検証して、地域に適したガイドにするために、見直していきましょう。

## 1. 運営本部の設置基準

- ・ 震度6弱以上の地震が発生した場合、又は地震による被害が拡大する恐れがある場合
  - ・ 神戸市から避難情報(警戒レベル3「高齢者等避難」以上)が発表されており、地域内の住民から避難支援の要請があった場合
  - ・ 台風や大雨による被害が発生する恐れがあり、本部設置が必要と判断した場合
  - ・ 台風や大雨による被害が発生し、活動上の危険がないと判断した場合
- ※ 警戒レベル3「高齢者等避難」以上の避難情報発令で役員は自宅待機

### 1-2. ブロック本部の設置基準

- ・ 上記運営本部の設置基準を準用する

## 2. 活動方針

阪神・淡路大震災の教訓で、近隣の方々に助けあうことはとても重要です。しかしながら周囲の状況をよく確認し、自らの安全を確保し、無理をせず、自分達の出来る範囲で防災活動を行いましょぅ!!

### 3. 役員参集場所等一覧

運営本部	箕谷地域福祉センター分館（ブロック本部兼務）			
ブロック本部	山の街団地第一集会所	松が枝町自治会館		
	日の峰集会所	ルネ神戸北町Ⅱ集会所		
防災資機材庫	箕谷小学校	ルネ神戸北町Ⅱ		
緊急避難場所（屋内）	名 称	土砂	洪水	避難所
	箕谷小学校	○	○	○
緊急避難場所（屋外）	日の峰東公園	日の峰北公園		
	日の峰中公園	日の峰南公園		
	箕谷城跡公園	城が岡公園		
	堂ノ奥公園	泉ヶ平公園		
	梅ノ木谷公園	山の街北公園		
	山の街南公園	正利の尾公園		
防災行政無線（屋内）	箕谷地域福祉センター分館 箕谷地域福祉センター本館			
防災行政無線 （屋外スピーカー）	神戸市北区役所山田出張所			
神戸市 災害テレフォンセンター	<b>0570-078-500</b> 避難情報、防災行政無線の内容などをお知らせします			
災害時給水拠点	箕谷中区配水池（災害時に飲み水の応急給水ができる場所）			

## 4. 防災資機材庫リスト 2-1

箕谷小学校 鍵：箕谷地域福祉センター分館

品名	数量	品名	数量
訓練用水消火器	5	携帯用発電機	2
粉末消火器	20	2連梯子	1
消火訓練用オイルパン	2	台車	1
スコップ	8	折り畳み式荷車	1
バール	2	梯子兼用脚立	1
ノコギリ	3	コードリール	2
斧	2	投光器	2
ハンマー	5	投光器用等三脚ポール	1
簡易ジャッキ	1	簡易トランシーバー	8
折り畳み担架	1	非常持出用品セット	1
救助用ロープ	5	金網・フェンスカッター	2
チェーンソー	4	金属工具セット	1
ヘルメット	9	金属ドリルセット	1
腕章	15	充電式ブロウ	1
携帯用電灯	3	救急セット	1
トランジスターメガホン	3	ポリタンク	5
広報用拡声器	1	布・ナイロン等製バケツ	30



## 防災資機材庫リスト 2-2

### ルネ神戸北町Ⅱ 鍵：管理事務所

品名	数量	品名	数量
粉末消火器	8	携帯用発電機	1
スコップ	4	2連梯子	1
バール	1	台車	1
ノコギリ	3	梯子兼用脚立	1
ハンマー	2	投光器	2
簡易ジャッキ	1	コードリール	1
チェーンソー	2	金属工具セット	1
ヘルメット	9	救急セット	1
腕章	19	ポリタンク	5
携帯用電灯	3		



## 5. 地震発生時の対応

---

### ▶ 災害発生直後の個人の行動

- 揺れを感じたら、身の安全を確保する
- 避難路の確保、ドアを開ける
- 可能な限り火を止める、ガスを閉める
- 家族や近隣の安全確認・声かけをする
- ライフラインの確認
- テレビ・ラジオ等での情報収集
- 防災グッズの確認・確保

### ▶ 箕谷ふれ協としての活動

#### ① 自主防災運営本部の立ち上げ並びに災害対応

- 本部に役員が揃わない場合、集まったメンバーで本部を立ち上げる
- 各ブロックの被害情報収集を行う
- 各ブロックの状況に応じて、人員・資機材の支援など調整を行う
- 本部に地域のマップ等を配置、集まったメンバーで情報を共有するためホワイトボードや筆記用具を準備する
- 役所への情報共有を行う
- 各ブロックの安否確認情報、被害状況、活動状況等を区役所や消防署に連絡する
- ブロックの協力を得て学校関係者や区役所職員と協力し避難所の開設支援をする
- 避難所運営で必要な事項を区役所等へ伝える

#### ② ブロック毎の立ち上げ並びに災害対応

- ブロック本部に集まったメンバーでブロック本部を立ち上げる
- 集まったメンバーでリーダーを決めて、本部との連携を取る
- ブロック内の情報を集め、必要に応じて班体制を立て防災活動を実施する
- 活動班の人員が不足な状態の場合、近隣の方へ声をかけ協力をお願いする
- 被害状況に応じては、本部に人員の要請を行う
- 本部と情報共有をする

## 6. ブロックの活動指針

---

### ▶ 情報収集・伝達（情報班）

- ラジオ、テレビ、防災行政無線のほか、スマホや PC 等も活用し、必要な情報（地震情報、避難情報、気象情報など）を集める
  - 行政機関へ直接連絡を取り、必要な情報を集める
  - バイクや自転車などを活用し、地域内の情報（被害状況など）を集める
  - 集めた情報はホワイトボード等に時系列で記載する
  - 情報を伝える手段として、トランジスターメガホン、広報掲示板、回覧板も効果的に活用する
  - 定期的に区役所や避難所等に出向き、公開されている情報を集める
- \*地震時は有線電話、携帯電話は使用できない可能性があります

### ▶ 安否確認（安否確認班）

- 各ブロックで安否情報を集約し本部へ報告する（民生・児童委員などと協力）
- 倒壊家屋等では、近所の住民から安否情報を集める
- 高齢者や乳幼児の方のフォローをする

### ▶ 消火活動（消火班）

- 出火場所を確認し、119（消防）へ連絡する
  - バケツや近所の消火器などを活用し初期消火を行う
  - 火災が延焼拡大した場合は、風上の広い公園等の安全な場所に住民を避難誘導する（メガホン等を活用）
- \*火災の規模によっては消火器やバケツリレーでの消火も重要です

### ▶ 救出・救護活動（救出・救護班）

- 二次災害に注意しながら、防災資機材を活用し、負傷者を救出する（ジャッキやバー、のこぎりが有効）
- 救出活動人員の割り振りをする
- 被災者が負傷している場合は、止血等の応急手当を実施する
- 傷病者を医療機関や救護所まで搬送する

▶ 救護所の設置（救出・救護班）

- けがの手当てができるよう救護所を設置する
- 資機材の応急セットやご近所から救急箱を提供してもらう
- 近隣の医療機関の応援を求める

## 7. 地震発生から2日目以降の行動（72時間ぐらまで）

---

▶ 役割分担の見直し

- 箕谷ふれ協の役員の集結状況や災害の状況に応じて役割を見直す

▶ 防火・防犯パトロール

- パトロール班を結成し、交代で地域内のパトロールを行う



# 箕谷ふれあいのまちづくり協議会防災マップ

2023年3月作成

## 凡例

- 緊急避難場所
- 指定避難所
- 防災資機材庫
- 防火水槽 (40t)
- 応急給水拠点
- 防災行政無線
- 防災行政無線スピーカー
- 警察署
- 消防署
- 屋外公衆電話
- AED
- コンビニ
- 地域境界線

## 凡例 (ハザードマップ)

- 土砂災害警戒区域 <かけ崩れ>
- 土砂災害警戒区域 <土石流>
- 土石流危険渓流
- 土砂災害特別警戒区域 <かけ崩れ>
- 土砂災害特別警戒区域 <土石流>

